
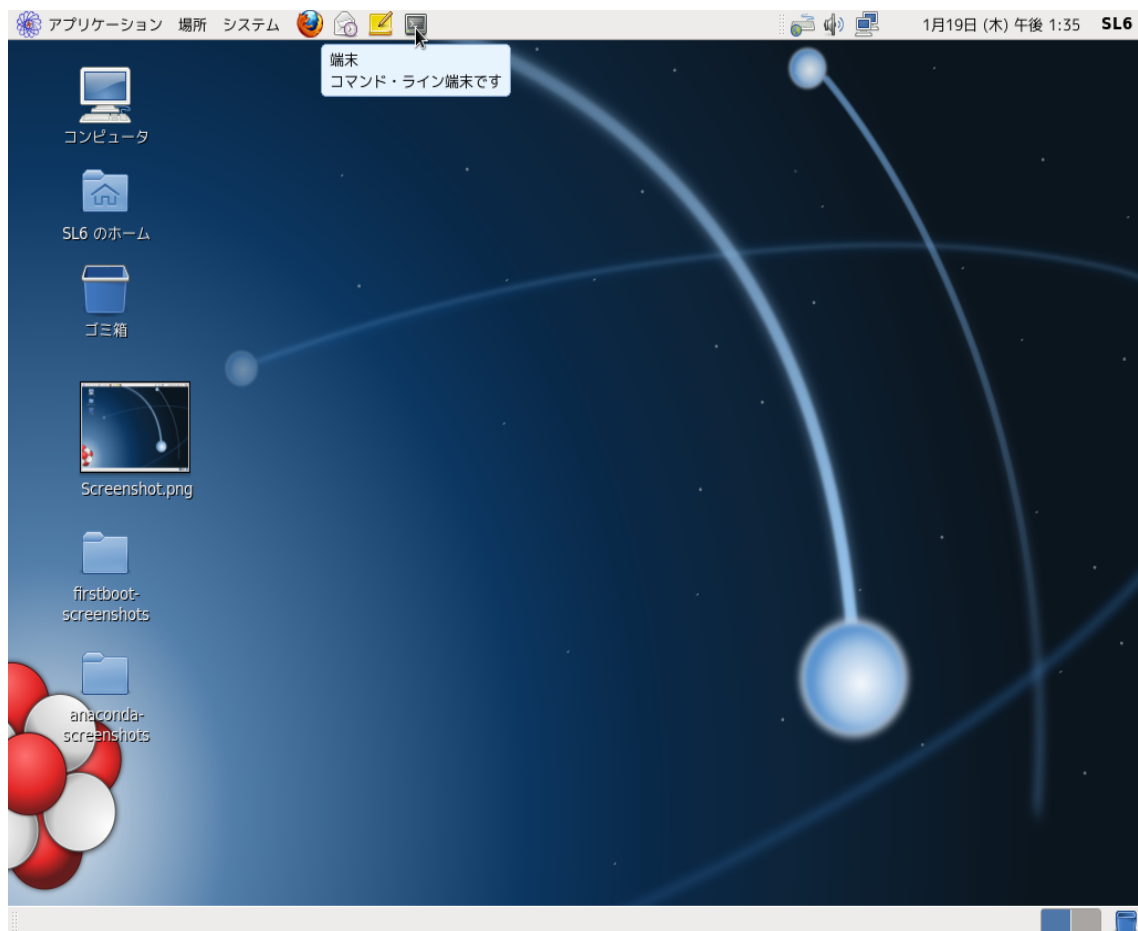



## 4. Linux 操作のための基礎知識

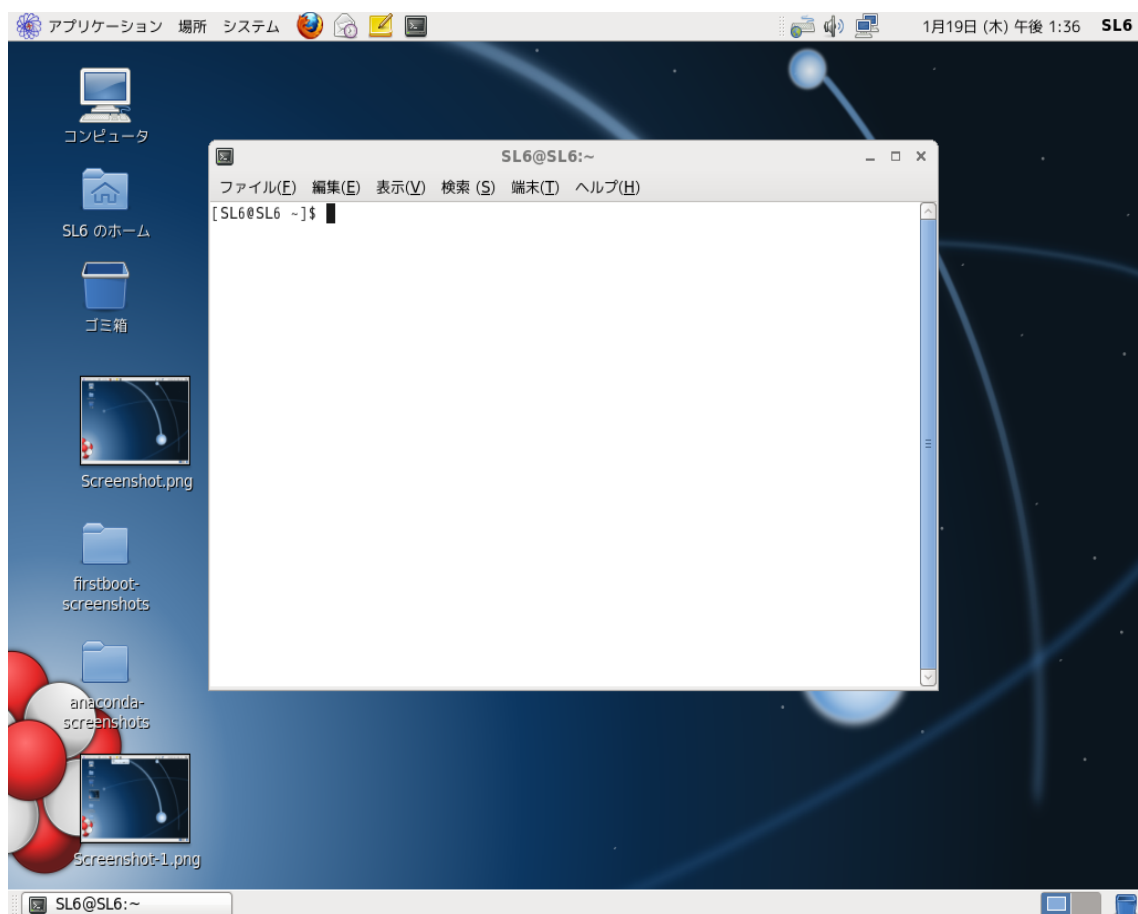
### 4.1. 操作に関する基礎知識

Linux は、一度ログインすると、通常は GUI 画面 (X Window System) が開きます。そして、端末 (コマンドライン端末) を開いてから、キーボードを用いてコマンドを文字列として入力していきます。Linux の基本的な考え方は、**単純なコマンドを組み合わせで使う**というものです。そのため、直感的な使い方という近年の GUI 操作からは若干離れた思考が必要になります。使い慣れないうちは戸惑いがちですが、慣れてくると、コマンドの組み合わせでより効率的に使うことができます。ではもう一度ログインしてください。

端末を開く方法はいくつかありますが、画面上部の  アイコン (黒い画面) をクリックして使うのが便利でしょう。



カーソルで  のアイコンをクリックすると、端末を起動できます



## GNOME 端末を起動

端末を開くと、そこには入力待ちを示すカーソルと共に、このような文字が出ていると思います。

```
[username@hostname ~]$
```

この部分をプロンプト (**prompt**) といいます。入力可能であれば、その時の状況に応じてこのプロンプトが出現します。初期状態でのプロンプトは、

```
[ユーザ名@ホスト名 現在のディレクトリ名]$
```

となります。記号“\$”はユーザの権限を示すための記号であり、

\$ = 一般ユーザ

# = 管理者 (スーパーユーザー)

となっています。

また、“~” (チルダ) はユーザのホームディレクトリ (/home) を表しています。

```
[root@hostname ~]#
```

となっている場合が、現在管理者モードであるという表示になります。

なお、今後のプロンプト表記においては、特別な理由がない限り、

一般ユーザでは“\$”を、管理者（スーパーユーザ）では“#”をそれぞれ用いて表現します。

入力された文字列を解釈するのはシェル（Shell）というソフトウェアです。シェルは、ユーザが指示した動作をコンピュータに行わせる役割を持ちます。X Window Systemでは、新しいコンソールを開いたときにそのコンソール上で自動的にシェルが動き出します。

シェルを用いたLinuxの操作は次のステップの繰り返しとなります。

- (1) シェルがプロンプトを表示する
- (2) ユーザがコマンド（と引数<sup>ひきすう</sup>）を入力してEnterキーを押す
- (3) シェルがその入力を解釈し、適切な動作をコンピュータに行わせる
- (4) 動作が終了すると、(1)に戻る

※引数（＝ひきすう）とはコマンド（シェルスクリプト）実行時に、コマンドラインから渡される値のことです。引数は実行時にプログラム内で参照され、シェルスクリプトの実行結果（動作）に影響を与えます。